

## 7 - 1 近畿・中国・四国地方の地震活動(1997年2月～1997年4月)

### Recent Seismic Activity in and around Kinki, Chugoku and Shikoku Districts (November, 1996-April, 1997)

大阪管区気象台

Osaka District Meteorological Observatory, JMA

第1図は、1996年11月から1997年4月までの大阪管区気象台で決定した震央分布図である。日付、マグニチュード(以下M)などが付してあるのは、M4.0以上の地震で合計15個発生している。このうち最大の地震は、12月3日の日向灘の地震(M6.6)であった。この地震の約30km東で10月19日に同規模(M6.6)の地震が発生して以来、余震活動が続いている中12月3日07時17分にM6.6の地震が発生した。この地震により九州全域、中国、四国、近畿地方の一部で有感となり、M4.0以上の余震は3個であった。今回の地震の発震機構は、10月の地震と同じ北西-南東圧縮の低角逆断層型で、ともにプレ-ト境界地震と考えられる。

このほかの活動として目立つのは、愛媛県南予地方に発生した4月1日のM4.7とその約54時間後のM4.9(4月3日)である。

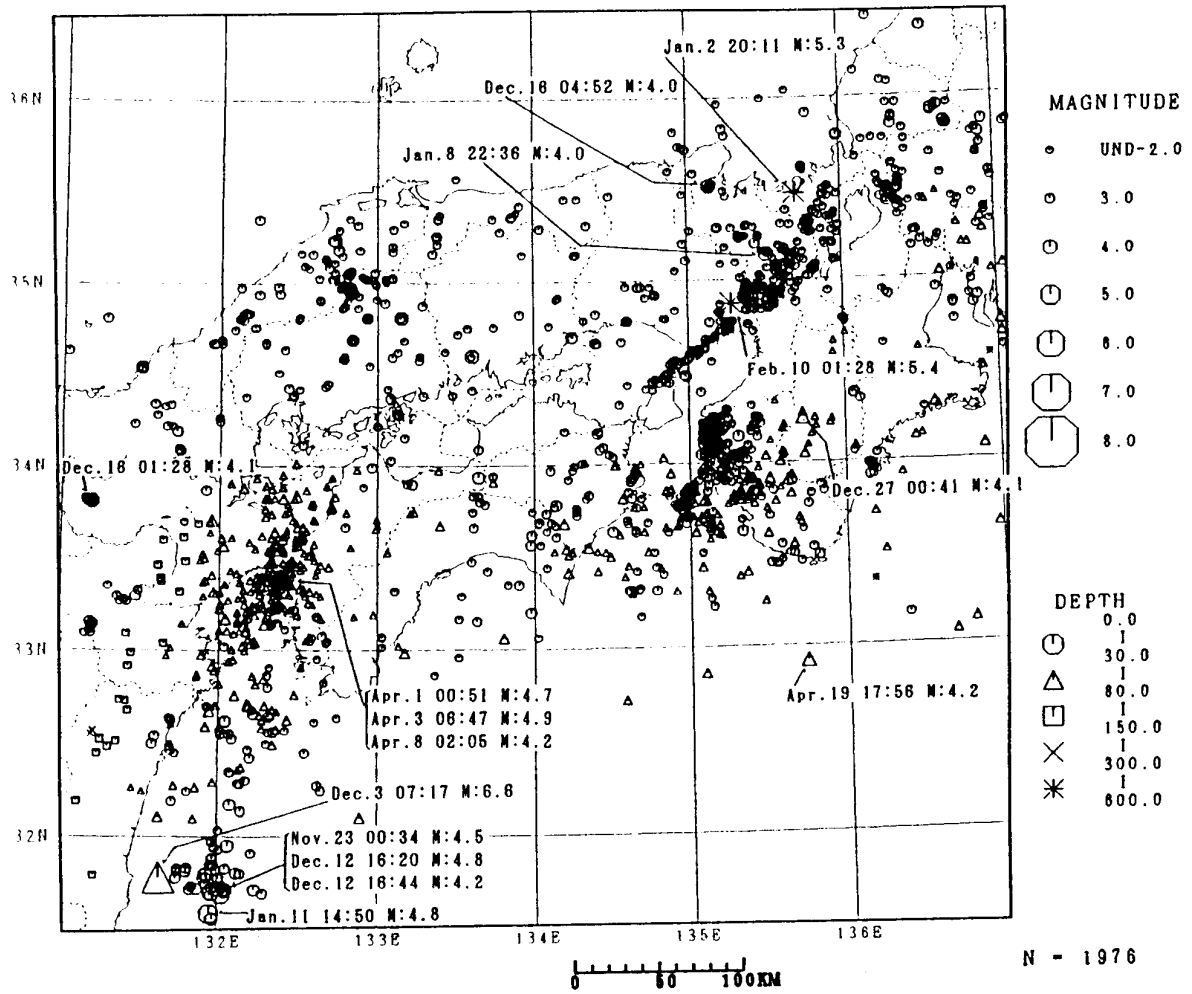
一連の活動は、3月31日23時45分のM3.7(震度1)の地震で始まり、その42分後にM2.0が、さらにその24分後の4月1日00時51分にM4.7が発生した。この地震で宇和島市など5ヶ所が震度3となったほか、四国、中国、九州地方の一部で有感となった。この地震の前に起きた2つの地震は、数キロメートルと離れておらず、その前数ヶ月間、この付近には地震が発生していないことから、前震と考えられないこともない。余震が順調に減衰していく中、4月3日にM4.9の地震が発生し、宇和島市、大分県蒲江町で震度4を観測した。一連の活動は、その震源の位置と深さから、フィリピン海プレ-ト内で発生した地震と考えられる(第2図 )。

同地域は、M4.5以下の小さな地震に関しては、伊予灘、豊後水道、日向灘にかけて地震活動が定常的に活発な周辺地域と同様に活発であるが、マグニチュードが4.5を超える地震は少ない。1900年以降では、1968年8月6日M6.6とM5.3および1969年11月30日に2回発生したM5.1の地震のみである。共に約12時間の間隔で起きていることも特徴的である(第2図 )。

その他の地域の地震活動としては、2月10日に兵庫県南東部でM5.4の深発地震(深さ:360km)が発生した以外は、定常的な活動レベルで推移しており特記事項はない。「兵庫県南部地震」の余震活動は、その後も引き続き順調に減衰している(第3図)。この間の最大余震は、1月23日淡路島付近の地震M3.3で震度1を観測している。4月30日までの余震回数は2594回、有感回数は414回である。

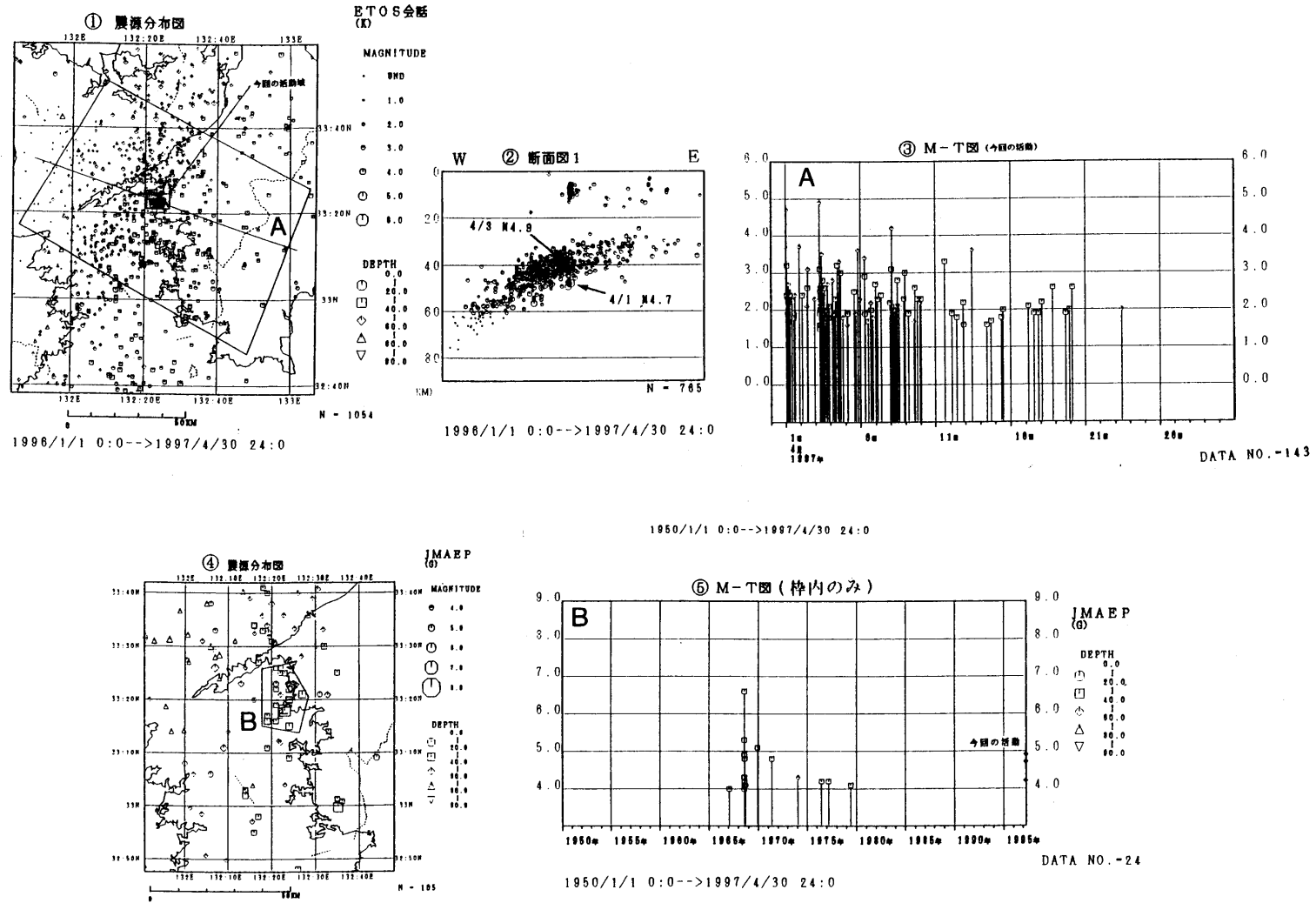
近畿・中国・四国地方の震央分布図

(1996/11/1 0:0-->1997/4/30 24:0)



第1図 震央分布図(1996年11月~1997年4月)

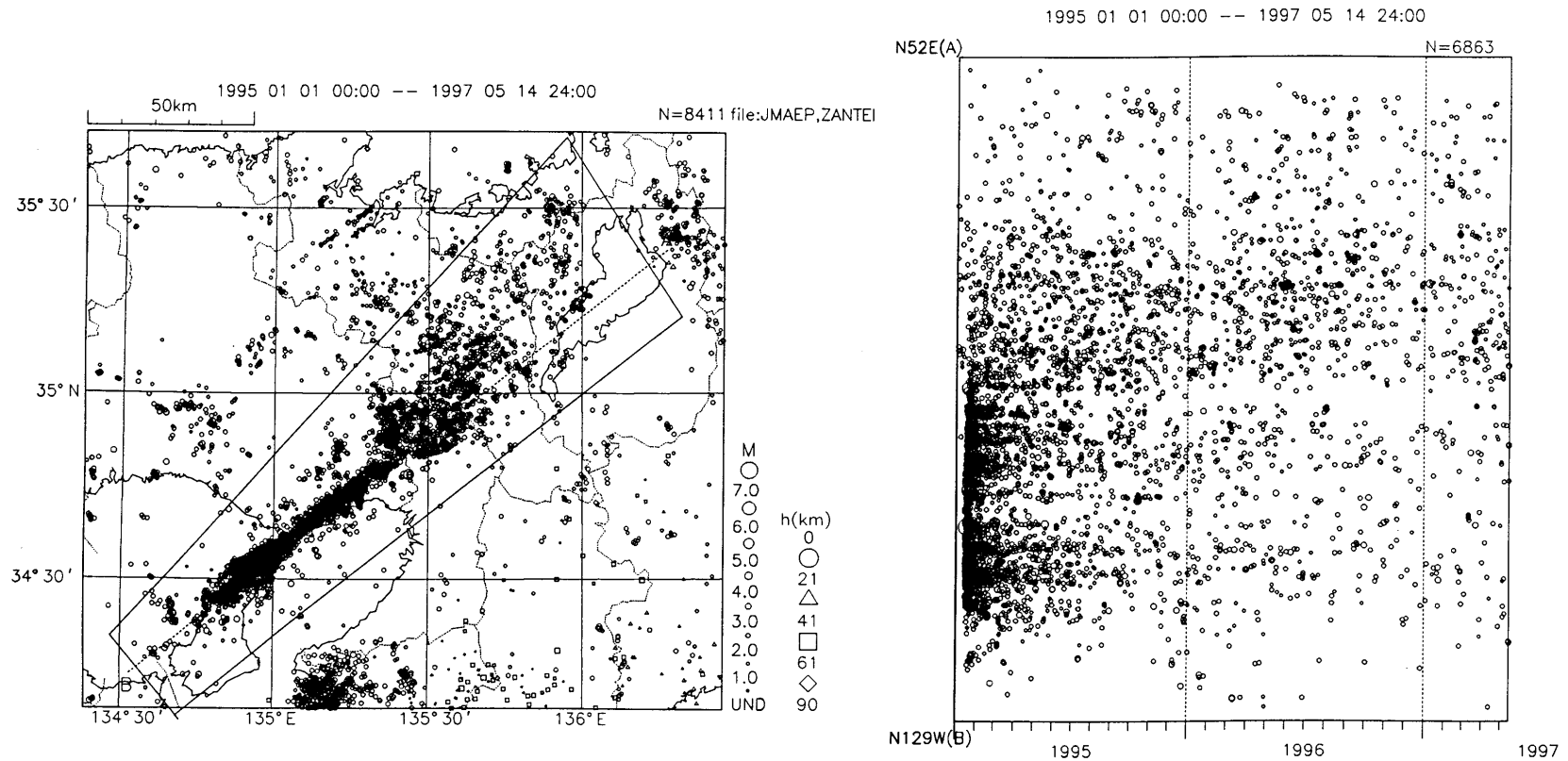
Fig. 1 Epicentral distribution (January, 1996-April, 1997).



第2図 愛媛県南予地方の地震活動(1996年1月~1997年4月)

Fig. 2 Seismic activity of Nanyo region at Ehime prefecture (January, 1996-April, 1997). Epicentral distribution (January 1, 1996-April 30, 1997). vertical section along the E-W direction and M-T diagram in region A. Epicentral distribution and M-T diagram in region B (January 1, 1950-April 30, 1997).

### 兵庫県南部地震と余震活動



【暫定】 (気象庁, 東京大学, 名古屋大学および防災科学技術研究所のデータを使用)

気象庁作成

第3図 兵庫県南部地震の余震活動と周辺の地震活動

Fig. 3 Aftershocks of the 1995 Hyogoken-Nanbu Earthquake and seismic activity of the adjacent region.